

[総合的病害虫・雑草管理（I P M）の実践について]

1 総合的病害虫・雑草管理（Integrated Pest Management：I P M）とは

利用可能な全ての防除技術を経済性を考慮しつつ慎重に検討し、病害虫・雑草の発生増加を経済的被害が許容できるレベルに抑えるための適切な手段を総合的に講じるものであり、これを通じ、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減、あるいは最小の水準にとどめるものです。

また、I P Mは科学的根拠に基づいた病害虫のまん延を抑える防除技術体系であり、農業生産の安定を確保しつつ、環境負荷低減の両立を目指す技術的な基盤となるものです。

2 I P Mの目的

人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減あるいは最小限にし、県農業全体を環境保全を重視したものに転換することで、消費者に信頼される農産物生産を実現するものです。

3 I P Mの基本的な実践方法

以下の①～③の取組を行うことが基本です。

① 病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備

輪作、抵抗性品種の導入や土着天敵等の生態系が有する機能を可能な限り活用すること等により、病害虫・雑草の発生しにくい環境を整えること

② 防除要否及びタイミングの判断

病害虫・雑草の発生状況の把握を通じて、防除の要否及びそのタイミングを可能な限り適切に判断すること

③ 多様な手法による防除

②の結果、防除が必要と判断された場合には、病害虫・雑草の発生を経済的な被害が生じるレベル以下に抑制する多様な防除手段（生物的防除、物理的防除、化学的防除）の中から適切な手段を選択して防除を実施すること

4 I P M実践指標による取組

(1) I P M実践指標とは

I P M実践指標は、県がI P Mを実践する上で必要な農作業の行程（以下「管理項目」）と各行程における具体的な取組内容（以下「管理ポイント」）を示すことで、農業者自身がI P Mに関する取組の程度を容易に把握するためのものです。

I P M実践指標を基に、前年の実施状況や今年度の目標と照らし合わせ、取組の評価を行い、翌年度の取組に反映させましょう。

(2) 新潟県I P M実践指標の活用方法

ア 実践している管理ポイントについて、チェック欄に点数を記入し、合計点数を出す。

イ 合計点数により、I P Mの実践レベルを自己評価する。

ウ 今年度と昨年度の実施状況の点数を比較し、次年度に向けた改善点及び改善方策を検討する。